

大雄会の 専門家に聞いてみよう!

Daiyukai Health System

改善が期待できる高血圧、

「原発性アルドステロン症」ってご存知ですか？

血圧が下がらなくて困っている方、もしかすると別の病気が隠れているかも知れません。今回からは、いわゆる二次性高血圧症の中でも代表的な「原発性アルドステロン症」についてお話していきます。

第一回 原発性アルドステロン症???ってなんですか？

高血圧は放置したままにすると脳や心臓・腎臓など様々な病気に繋がりますが、塩分(ナトリウム)の摂りすぎで高血圧になるという話はよく聞かれます。このナトリウムと関連するのがアルドステロンという物質(ホルモン)で、腎臓の頭側にある小さな臓器(副腎)で作られています。アルドステロンは体にナトリウムを蓄える働きがあります。が、病的に作られるとナトリウムが過剰に貯まり高血圧になります。この病気のことを原発性アルドステロン症と言いますが、薬を沢山飲んでも血圧が下がりにくくなることもあります。高血圧患者さんの3〜12%程度が該当するという報告

があり、副腎に腫瘍がある場合や、40歳未満で高血圧の場合、睡眠時無呼吸症候群の場合などに多いのが特徴的です。この他アルドステロンはナトリウムを蓄える際にカリウムというミネラルを尿として排泄するため、血中カリウムが低い場合もあります。原発性アルドステロン症では通常の高血圧症(本態性高血圧症)と比べて脳や心臓の病気の頻度が高くなるのですが、適切な治療で高血圧の改善、ひいては様々な病気の予防へ———そういった可能性に期待することができま

す。高血圧に関わっている病気があつて、しかも治療で血圧改善の可能

性を持てるのって驚きですね。

次回は原発性アルドステロン症の診断、治療についてお話していきます。



文献: 原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021
日本内分泌学会編



監修

内分泌・糖尿病内科診療部長

はしもと まさや
橋本 昌哉 医師

〈主な資格〉

- ・日本糖尿病学会認定糖尿病専門医
- ・日本内分泌学会認定
内分泌代謝科専門医

